鷹巣誠一作「思いやり」

効果音　（終業のチャイム）
先生　いいか、休みが2日もあるんだから、次のところまで読んどけよ。一人ずつ感想を言ってもらうからな。
生徒　起立。礼！
効果音　（教室のガヤ）
村中　よう清水、今日茶店行ってテレビゲームやんねぇか？　この前は3000点でさ、惜しかったんだよな。
清水　またかよ。お前の遊び好きには参ったな。大学、大丈夫かよ。
村中　まあいいじゃないか。あれほど面白いものはないぜ。
清水　それはいいけどさ、（小声で）ほら、あの窓のところの福島、どうもいつもと様子が違うんだよな。思いつめてる感じで、今にも自殺しそうだぜ。
村中　（小声で）バカ、冗談言うない。
清水　冗談じゃないよ。ちょっと聞いてみようぜ。（美恵子に近寄り）ねえ。
福島美恵子　え？
村中　どうしたんだよ？　ふさぎ込んじゃってさ。
清水　桑田のことでうまくいってないのかい？
美恵子　ん…。
清水　どうしたんだよ？
村中　おれたちの仲じゃないか。言ってみなよ。
美恵子　そうね。清水君も村中君も友達だものね。
清水　ここじゃ話しにくそうだから、どこか行こうか。
村中　じゃ、あそこの茶店行こうぜ。
清水　（小声で）テレビゲームはなしだぜ。
村中　分かってるよ、それぐらい。当たり前だろう。
効果音・音楽　（喫茶店の中）
清水　一体どうしたんだい？　ついこの間までは、よく桑田と4人でこうやってコーヒー飲んだり、買い物したりしてたのにさ。
村中　そう言えば、最近桑田とも会ってないな。あいつ、学校違ったから気にも留めていなかったけど。
美恵子　実はね、彼、今度心臓の手術をするのよ。
清水　あいつ、心臓悪かったのか。
村中　そうな風には見えなかったけどな。
清水　それで、危険な手術なのか？
美恵子　ええ。助かる確率は30％なの。それに…、手術費が100万かかるの。それでわたしも、彼のお母さんも、兄弟も皆でアルバイトをしてるんだけど、とても生活が苦しそうなの。お父さんは亡くなっていて、いないし。見舞いに行くと、彼はいつも寂しそうにこう言うの。
音楽　（ブリッジ　回想）

美恵子　　桑田君、元気？
桑田　　やあ、美恵ちゃんか。いつもすまないなぁ。
美恵子　　ううん、気にしないで。それよりも、手術に備えてもっと体力をつけなきゃ。
桑田　　美恵ちゃん…。
美恵子　　え、なあに？
桑田　　おれ、手術を受けるの、やめようと思うんだ。おれはこのまま死んでいくのが一番いいと思うんだ。
美恵子　　イヤ！　そんなこと言わないで。（泣く）
桑田　　おれ、分かってるんだよ、手術をやっても助からないって。それに、おれのために君や母さんや弟たちが、苦しい生活をしているのを見ると、自分が生きていることが間違っていると思うんだ。だから、いっそのこと死んでしまった方がいいと思って…。
美恵子　　やめて。そんなこと言わないで。桑田君が死んだらわたしも死ぬわ！（エコー）
音楽　　（ブリッジ　回想終わり）
美恵子　　それでわたし、彼のお母さんにも言えなくて…。
村中　　そうか…。
美恵子　　わたしには、彼を勇気づける力がないの。でも彼に生きてほしいのよ！
村中　　困ったなぁ。おれが行って慰めたところで、あいつの苦しみは代わってやれないし…。
美恵子　　わたし、彼の代わりに死んでもいいわ。彼が生きてさえいてくれたら…。（泣く）
清水　　福島、もう泣くなよ。おれがやれるだけのことをやってみるよ。
村中　　清水、お前、そんなこと言っちゃって大丈夫なのかよ？
清水　　ああ。実はね、イエス・キリストのことを伝えようと思うんだ。
村中　　キリスト？　お前、クリスチャンなのか？
清水　　そうなんだ。いいかい、福島。今の桑田に必要なのは、君の愛だ。思いやりなんだよ。君が今言った、彼に対しての“生きてほしい”という願いと、“自分が身代わりになってもいい”という気持ちを、彼にはっきりと伝えるんだ。君一人のためだけでも、“なんとしても生きよう”という気持ちを起こさせるんだ。いいね？　あとは僕がなんとかやってみるから。
ナレーション　　清水君は、その日の夜の祈祷（きとう）会で、二人のことを祈ってもらいました。
教会員　　（祈り）「神様、どうか桑田君をいやしてください。」「どうか桑田君が、イエス様を信じて生きる者としてください。」「どうか福島さんの愛を守ってください。」「神様、桑田君が生きることの大切さを知ることができますように。イエス様のことを伝えようとしている清水君に力を与えてください。」
ナレーション　　そして次の日曜日の午後、清水君たち３人と教会員の神田さんとで、桑田君を見舞いました。
清水　　やあ桑田、具合はどうだ？
村中　　少しばかりやせたかな。
神田　　初めまして。神田です。
美恵子　　桑田君…。
桑田　　やあ。皆、来てくれたのか。久しぶりだなぁ。
清水　　福島から、話は全部聞いたよ。
桑田　　君たちの言いたいことは分かってるよ。…本当は僕だって死にたくないんだ。でも、美恵ち

ゃんや母さんたちを見てると、その優しさがかえって重荷になるんだ。

神田　桑田さん。あなたの、家族や福島さんに対する思いやりはわたしにも十分分かるわ。でもね、人間は神様につくられた者なの。そして人間はいつか死ぬわ。でもね、わたしたち一人一人をいつ天に召されるかをお決めになるのは、神様のなさることなの。神様があなたを天に召される前に、あなた自身が命を絶つということは、一番の罪なのよ。

清水　そうだよ。神様は今度の手術で君をいやされるかもしれないんだぞ。そのために、君の母さんも福島も、こんなにやれるだけのことはやっているんじゃないか。

美恵子　お願い！　桑田君、生きて！　もう「死ぬ」なんて言わないで！

村中　そうだよ桑田。おれには神がいるかいないか分かんないけど、神田さんや清水の言っていることは、なんとなく当たっている気がするんだ。それに、もしかして神がいたらどうするんだよ？　福島やお前の母さんたちのためを思ってやったことが、お前、大間違いになるんだぞ。成仏できねぇぞ。

神田　そうよ。お願いだから、素直に神様を信じてみてちょうだい。そして生きるのよ！

美恵子　桑田君！（泣く）

桑田　…分かった。分かったよ。（涙声で）分かったから独りにしてくれ。少し考えさせてくれよ。

清水　じゃあまた明日来るよ。

効果音　（ドアの閉まる音）

ナレーション　だれもいなくなった病室で、彼は独りで泣いていました。ふと気がつくと、まくら元に神田さんが置いていった聖書と、美恵子が愛を込めて書いた手紙が置いてありました。清楚hに添えた１枚のきれいなカードに、神田さんの書いた聖書の一節が書かれていました。彼はそのところを読んでみました。

聖書　「あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。 」（コリント人への手紙第一 10:13）

ナレーション　次の日、清水君たちが病院を訪れた時、桑田君の顔は希望に満ちて輝いていました。

桑田　やあみんな。待ってたんだ。

美恵子　桑田君！

桑田　美恵ちゃん、悪かったな、心配かけて。おれ、手術を受けるよ。美恵ちゃんや母さん、そしてみんなのためにも。そして、まだよく分からないけど、神様がいるなら神様のためにもね。

清水　そうか！

村中　よかったな、福島。

美恵子　うん、よかった。ほんとによかった。みんな、ありがとう。神…神様、ありがとうございます。

神田　その聖書、あなたにあげるわ。

桑田　ありがとう。みんなの、いや神様とその聖書のお陰かな。おれ、これからいろいろと聖書の勉強してみるよ。清水、分からないことがあったら教えてくれるか？

清水　いいとも。手術が終わって退院したら、みんなで教会に行ってみないか？

美恵子　そのためにも桑田君、手術、頑張ってね。どんなことがあっても、きっと、きっと生きてね！

神田　そうよ、桑田さん。神様があなたを生かしてくださったら、それはきっと、あなたになすべき仕事があるからなのよ。みんなのために、そして――神様のためにね。

＜完＞